

「おしよろ丸」で北極海の調査へ 学生や朝日記者ら羽田を出発



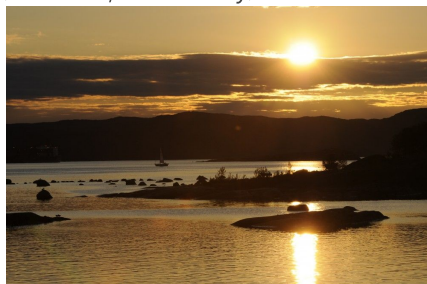
温暖化の影響などを調査するため北極海周辺を航行中の北海道大水産学部の練習船「おしよろ丸」に途中乗船する学生や朝日新聞の中山由美記者らが7日、羽田空港を出発した。6月8日に北海道・函館港を出港した同船は、北極海の前半の調査を終えて7月8日に米国アラスカ州のノーム港に寄港。メンバーを一部入れ替えて12日（日本時間13日朝）に再び北極海へ向かう。北極海では海水の減少や海水温上昇が進んでいる。今回の航海は、北大と国立極地研究所（東京都立川市）、海洋研究開発機構（本部・神奈川県横須賀市）などによる北極研究プロジェクトで、国内外の大学や研究機関の研究者らがベーリング海北部から北極海の一部・チュクチ海で海水やプランクトン、魚類などを採取、鳥類や哺乳類も観測し、生態系をはじめとする海洋環境を調べる。8月3日に函館に帰港する予定だ。

記事参照：「おしよろ丸」で北極海の調査へ 学生や朝日記者ら羽田を出発：朝日新聞デジタル (asahi.com) (2023.7.7/朝日新聞)

記録的な暑さの1週間「地球にとって憂慮すべきニュース」とWMO



記録的な暑さの6月、異常に高い海面水温、南極の海水の減少など、他の多くのデータとともに、この測定値は国際社会に警鐘を鳴らすものである、と国連機関は述べた。「6月と7月初旬の異例の暖かさは、エルニーニョの発生と同時に起こった。このエルニーニョは陸上と海洋の両方で暑さをさらに煽り、より異常な気温と海洋熱波につながると予想される」と、WMO気候サービス部長のクリストファー・ヒューイットは声明で述べた。
記事参照：Hottest week on record ‘worrying news for planet’ says WMO - ArcticToday (2023.7.11/Arctic Today)



The coast of Finnmark, Norway. Photo: Thomas Nilsen

北極圏で史上最高気温 ノルウェー北端の町で28・8度 地球規模の猛暑！



欧州最北端の灯台（スレットネス灯台）と岬（ノールヒン岬）があるノルウェーのガンビク（北緯70度55分）で13日、気温が28・8度にまで上昇。ノルウェーの気象当局が発表し、AP通信が伝えているもので、これは北極圏（北緯66度33分以上）の気温としては、1964年7月の27・6度を59年ぶりに上回る観測史上最高となった。

記事参照：北極圏で史上最高気温 ノルウェー北端の町で28・8度 地球規模の猛暑！— スポニチ Sponichi Annex 社会

氷河の融解によって数百万年前のメタンが大量に噴出…北極圏のスヴァールバル諸島で



北極圏に何百もの泉が出現し、そこから太古のメタンが大気中へ大量に放出され、研究者は懸念を示している。地下水泉は北極海に浮かぶノルウェーのスヴァールバル諸島で、氷河の融解によって露出した。ケンブリッジ大学の研究者たちは、このメタンは数百万年もの間、地下に蓄えられていたもので、それがしみ出してきたと考えている。

記事参照：氷河の融解によって数百万年前のメタンが大量に噴出…北極圏のスヴァールバル諸島で | Business Insider Japan

ウォール・ストリート・ジャーナル紙、アラスカの大型LNGプロジェクトにアジアの買い手はついていないと報道



ウォール・ストリート・ジャーナル紙の新しいレポートによると、アラスカの主要な液化天然ガス輸出プロジェクトであるアラスカLNGは、主要市場である日本と韓国の潜在的な買い手から支持を得ていない。無名の情報筋の話を用いたこの記事は、「アラスカ・プロジェクトからの天然ガスをアジアの同盟国が敬遠」という見出しで、「潜在的な買い手は、このプロジェクトのスケジュールに懐疑的である」とし、競合するプロジェクトが2030年までに他の天然ガス供給源を提供するだろうと付け加えている。

記事参照：Wall Street Journal says Asian buyers aren't sold on Alaska's big LNG project - ArcticToday (2023.7.26/Arctic Today)



Copyright Alaska Gasline Development Corp.

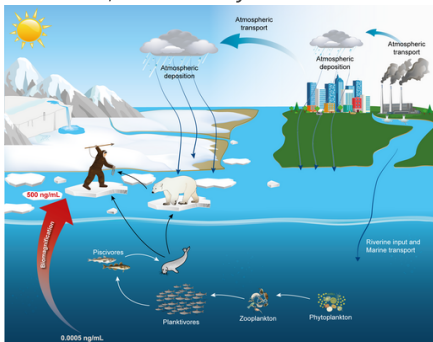
グリーンランド、フェロー諸島、デンマーク、英国の人口におけるPFAS濃度 驚くほど高いレベルに



オース大学の新しい研究は、PFAS(有機フッ素化合物)による世界的な汚染を制限するための国際的な努力の必要性を示している。

PFASは免疫系を阻害するため、感染症や癌のリスクを増大させ、破傷風、ジフテリア、インフルエンザ、COVID-19などの予防接種の効果を低下させる可能性がある。グリーンランド北東部のイトコルトルミットに住む狩猟民は、PFASの汚染源から遠く離れた場所に住んでいるにもかかわらず、血液中のPFAS濃度は世界最高レベルである。

記事参照：Alarmingly high PFAS levels in the populations of Greenland, the Faroe Islands, Denmark and the UK - ArcticToday (2023.7.14/Arctic Today)



PFAS reaches the Arctic with air and sea currents from North America, Asia and Europe. PFAS can, among other things, cause damage to people's immune system. As polar bears and humans are at the top of the food chain in the Arctic, they can have concentrations of PFAS that are up to 30 million times higher than in plankton algae in the sea.

アラスカ以遠の永久凍土を追跡する新しい人工知能支援技術が計画



永久凍土の変化を追跡するには何年も、時には何十年もかかる。急速に温暖化する北極圏の変化に追いつくことはできない。Googleが資金を提供するプロジェクトにより、科学者たちはこうした変化をリアルタイムで追跡する新技術を開発することになる。Googleは、マサチューセッツ州を拠点とするウッドウェル気候研究センターに500万ドルの助成金を提供し、衛星データと人工知能を組み合わせたシステムを構築することで、北極圏の変化をリアルタイムで把握することに成功した。記事参照：New artificial intelligence-assisted technology is planned to track permafrost in Alaska, beyond - ArcticToday (2023.7.25/Arctic Today)

日EU、海底ケーブルに財政支援で合意 北極海を念頭

日本と欧州連合（EU）は3日、大量のデータをやりとりするのに欠かせない海底ケーブルの敷設に財政支援を検討することで合意した。ロシアを避けた北極海を通る新ルートが候補だ。ウクライナ侵攻など地政学リスクが高まるなか、欧州とアジアの安全で高速なデータ流通を後押しする。

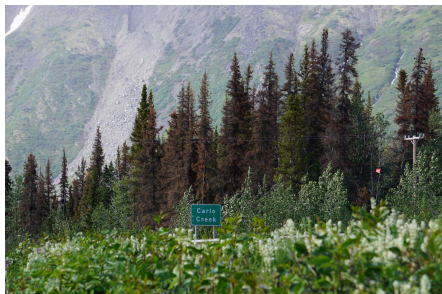
記事参照：日EU、海底ケーブルに財政支援で合意 北極海を念頭 - 日本経済新聞 (nikkei.com)

トウヒ・カブトムシのデナリ への進出 将来の森林の変化 に疑問を投げかける



デナリ国立公園と保護区に押し寄せる観光客の群れとともに、もうひとつの到来がある。大量のカブトムシが公園内のトウヒの木に寄り込み、枯れ始めているのだ。トウヒカブトムシはアラスカ原産で、極北の少数ではあるが、北方林として知られるトウヒ、シラカバ、アスペンの一帯に生息している。トウヒ（主にシロトウヒ）の樹皮を食い破り、その下の軟組織で繁殖する。この軟組織は樹木の生存に不可欠であるため、カブトムシの存在は必然的に樹木を枯死させる。

記事参照：Spruce beetles' expansion into Denali poses questions about future changes in the forest - ArcticToday
(2023.7.31/ArcticToday)



↑Beetle-killed spruce trees, their needles rust-red, are seen by the side of the road on July 8 at Carlo Creek, a community just outside the main Denali National Park and Preserve entrance. (Photo by Yereth Rosen/Alaska Beacon)



↑Beetle-bored holes and dried drippings of sap that was produced in defense are seen on July 7 on an infested tree along the Mount Healy Overlook Trail in the front country of Denali National Park and Preserve. (Photo by Yereth Rosen/Alaska Beacon)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】

Vol.29は、2023年7月のニュースを掲載しています。
気温の上昇が目立ちました。今月の記事が伝えるようにメタン噴出の増加や生態系への影響の深刻化が懸念されます。北極海底ケーブルに関する日EU協力も注目です。（大西）

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監 修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/

